

日本の中小企業を再生するカギは教育しかない

三保俊輔税理士事務所 代表 三保 俊輔氏

「経営の幼稚化が進んでいる。一部では経営がゲーム化し、売ることだけに意識が向き過ぎて無秩序になっているケースも多い。だから、企業同士のケンカが絶えないのです」。そう語る税理士、三保俊輔氏。同氏はその背景に「消費者側の不勉強」も影響していると指摘する。不動産投資の事例を多く扱う三保氏は、会社経営の本質について次のような意見をもっている。

「ヒト投下資本の回収こそが経営の本質」

人財は決算書上固定資産の扱いとはならないが、一定の管理コストをかけながら教育という資本的支出を行い、その投下資本を回収していく過程を意識しなければならない。

そしてこの教育こそが経営者が手掛ける付加価値の正体である。

また、人材育成について、「初めから人格や感情の壊れている人間は投資するに値しない」と語る。単に仕事だけができる作業ロボットの育成ではなく、人格面や生き方の教育を含み、このような人材教育はヒト生産ライン上では実現できない。また、一般的にその市場が買い手市場であったとしても、良質な物件に絞り込む限り必ず売り手市場となる。採用の現場においても、例外なく同じ現象が起きているという。ここに、プレミアムという概念を導くことができるということだ。これからは、自らの事務所の成長だけを考えるのではなく、自立経営を目指すポテンシャルを秘めた経営者の開発に会計人として力をいれていくという考えだ。



三保俊輔税理士事務所

広島市東区光町1丁目12-20 もみじ広島光町ビル3F

代表税理士、財務コンサルタント、登録政治資金監査人 三保 俊輔